

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4491400067		
法人名	社会福祉法人 安岐の郷		
事業所名	さわやかクラブむさし苑		
所在地	大分県国東市武蔵町系原2368-2		
自己評価作成日	平成29年9月5日	評価結果市町村受理日	平成29年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成29年10月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

総合記録表を記録する事で、ご利用者個人個人の状態をトータル的に把握がしやすく、今年度よりGHのオリジナル行事食を始め、季節に応じた食材を使用し、季節感のある食事を提供している。また、近くのこども園に出掛けてこどもとの触れ合いや、地域のお店に買い物に出掛けたりしている。外出の際、ご利用者が友人に会われる方もおられたりし、地域の皆さんとも馴染みのある関係が切れないうような支援にも力を入れている。ご利用者の誕生日には担当職員がメッセージボードを作成している。職員もそれぞれの得意分野に合わせて(パソコンが得意な人・レクリエーションが得意な人・料理や工作・折り紙が得意な人等)役割分担を行っている。また職員が地域へ積極的に出るようにしており、武蔵港踊りに参加したりしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

・介護記録やアセスメントシートを工夫し、すべての利用者の「ふるさと訪問」を繰り返しおこなう等、本人が大切にしてきたなじみの関係の継続的な支援をしている。  
 ・買い物や地域行事への参加を通して、地域との交流に力を入れている。職員も積極的に地域行事へ参加し、地域の一員としての交流を心掛けている。  
 ・「介護チェック表」を用いての自己評価や内部研修、新人職員へのエルダー制度等、職員のスキルの向上に積極的に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念は毎朝の全体朝礼で唱和しており、法人の理念を下に各部署の方針を掲げている。GHでは「私達のご利用者の一瞬一瞬の輝きを見出すために地域と共に歩んでいきます」を皆で考え、GHの朝礼で唱和し実践に努めている。	法人の理念に沿って、事業所の目標と方針を作っている。入職時に理念を説明し、理念の共有につなげている。職員は日々のケアの中で理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回、こども園を訪問し交流を行っている。また地域のお祭りや行事などにも積極的に参加し、地域の文化祭では作品の出品を行っている。買い物支援もなるべく地域の店を利用しており、繋がりがもてるようになった。	地域の行事への参加や、事業所の行事に地域の人を招待するなど、双方向の交流を行っている。 職員が積極的に地域に関わり、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と一緒に地域の行事やお祭りへ参加し、またGH周辺の散歩や買い物を行い、認知症の方への支援の方法や症状について少しでも理解が深まるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議で、毎月ご家族向けに発行している日常生活のわかる便りを、会議出席者に配布している。またパワーポイントを使用し活動内容や取組を発表し、質問や意見等を受けながらサービスの向上に生かしている。	地域からの参加者が多く、事業所の課題や地域の課題について話し合う場となっている。事業所の運営状況や外部評価結果を報告し、意見や地域行事の情報をもらいながら、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員2名が運営推進会議に出席して下さっており、実情を伝えている。また日頃から不明な点や質問等について市に連絡し返答をいただいている。	市担当者は毎回、運営推進会議に参加している。 事業所の取り組みを積極的に伝えながら、疑問点や相談があれば、電話や担当窓口に出向いて相談するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を実施しており、職員は必ず出席し報告書を提出している。またホームの施錠についても記録をとっている。基本は8時から17時まででは開錠すると決めており、毎月の開錠率は100%を超えている。	職員は、毎年1回は必ず、「身体拘束しないケア」について学ぶ機会がある。月1回、チェックシートを用いてケアの振り返りを行いながら、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待防止に取り組んでおり、個々の職員が虐待と思われることについてまとめ、それを勉強会の場で報告している。また、ISO9001の部門目標のアクションプランの中で、毎月不適切な介護チェック表をつけ集計し、職員間でお互いに注意しあうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネは法人のケアマネ勉強会にて学ぶ機会があるが、他の職員は学ぶ機会はあまりない。しかし、毎年4月の全体会議で理事長が権利擁護、倫理規定、守秘義務と言ったご利用者の権利擁護について説明、啓発活動を行っている。成年後見人制度については、活用したケースがなく今後学んで行く必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族が不安なく契約できるように分かりやすく丁寧な説明を行っている。特にご家族の不安や疑問には十分な聞き取りを行い、いつでも対応できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回、ご家族会を含めた忘年会を行っており、その場でご家族より意見をいただいている。また月に1度、第三者委員の来苑があり、ご利用者への聞き取りや現場の様子等の指導もある。	年1回、家族会やアンケートを実施している。面会時や月1回の事業所の報告を郵送する際に意見を聞く機会を作っている。職員は、家族が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第一月曜日にGH会議を行っており、その中で職員が意見を出し合っている。また、個人面談があり必要書類に意見等を記入し面談を行うようになっている。必要書類は必ず施設長に提出するようになっている。	個人面談や月1回の会議で意見を出す機会を設けている。日々のケアの中での気づきは、その都度話し合い、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績効果表を年2回行っており、個人面談も行いそれぞれの意見を聞く機会を設けている。また面談で個人目標を立て、それがやりがいとなり向上心を持って仕事ができるようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはエルダー制度(3ヶ月間ま)を設けており、マンツーマンでの指導が行える。また毎月他部署との合同の内部研修や今年度よりスキルアップ研修があり、様々なテーマの勉強会が行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県のGH・小規模多機能合同の職員研修会を2ヶ月に1度行っており、各施設の事例発表やグループ討議を行っている。また地域ケアネットやホットネット等でも他事業所との交流の場があり、情報交換等が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	特に遠慮がちなご利用者に対しては、日々の様子や1対1のコミュニケーションを通して不安な事や要望などをさりげなくみ取るようにしている。要望等は可能な限り叶えられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に面会時等の際に、ご本人様の様子をお伝えするとともに、ご家族の想いや要望等を聞くようにしている。またご家族の不安がないように日々様子がわかる便りを毎月発行し、遠方のご家族には手紙を添えて送付している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望を第一に考え、会議等でその時々により重要とされるサービス提供ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をするという立場だけでなく、生活を共にする中で個々の能力を見極め、その方の得意な事が生かせるようにしている。また裁縫や料理等の家事は男性職員もいるため、教わる事が多く職員がご利用者を頼りにする事もあり、持ちつ持たれずの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や外泊・外出に加え、遠方のご家族には電話をしたり、手紙を書いている。毎日面会があるご家族や散髪をして下さるご家族もおり、ご家族と過ごされる時間を大切にしている。また職員・ご家族が共に相談しあう関係も築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に2~3回、ふるさと訪問で自宅の様子を見たり、墓参りをしたり、以前働いていた職場やご本人にゆかりのある場所へ出掛けるように努めている。ゆかりの地でご近所の方やご友人に会われる事も多く互いに喜ばれている。	入居時より、本人が大切にしてきたなじみの関係の把握に努め、支援につなげている。すべての入居者のふるさと訪問やなじみの場所への外出を継続的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	異性間の問題や性格の合う合わないがあり、そういった関係を把握した上で食事の席や外出ペアなど考慮して支援するように努めている。またレクリエーション等を通じてご利用者同士が関わりあえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設への入所であればGHのご利用者と一緒に面会へ行き馴染みの関係を断ち切らないようにできている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションや行動等より思いをくみ取れるように努めている。またその思いも可能な限り叶えられるよう努めている。	本人の言葉や表情から思いや意向の把握に努めている。心身の状況ごとの本人の思いをアセスメントシートに記入し、定期的に見直すことで、その時々本人の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等は入所時にご家族より情報をいただいております。その他の情報もご本人との会話等から情報を得ている。その情報をもとに現在の状況と照らし合わせ支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	総合記録より生活リズムを把握し、朝・夕のバイタルチェックで身体管理を行い、健康に過ごせるように努めている。またご利用者一人ひとりの能力を引き出せるように固定観念にとらわれず様々なアプローチを行い、できる力を発見している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のGH会議で職員・施設長・統括・看護師等とカンファレンスを行い、担当者はご家族にも電話や来苑時等に要望を聞いて計画書を作成している。また状態変化の場合もプランの見直しを行っている。	月1回の会議で、本人の状況を確認しながら、3か月ごとにモニタリングを行っている。家族や職員等関係者の意見をもとに定期的に見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録やワーカー日誌に日頃と違う様子や新しい発見を記入したり、情報の共有を行いケアに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対しては可能な限り柔軟に対応しており、併設している特養なども協力しサービスの提供を行っている。またその時々に応じて事業の拡張などもできている(特化型デイサービス)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事等に積極的に参加したことで少しずつ交流がスムーズに行われている。特に地域の文化祭には毎年、ご利用者の作品を出品しており、地域の方の反応もよくにも期待されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個人個人で主治医が違っており、入所前から受診している病院を継続されている方がほとんどである。また急な発熱等でご家族が付き添えない場合は、病院と連携をとり臨機応変に対応している。	本人や家族の希望に沿ったかかりつけ医となっている。看護職員を中心に受診支援を行いながら、かかりつけ医と家族との連携を図っている。薬剤師との連携もあり、アドバイスをもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHの看護師だけでなく、併設の特養の看護師にも毎日の状態報告を行うようにしており、情報を共有することで急変時等にはすぐに対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	国東市民病院の医療連携室と連絡を取り合い、状態等の情報をいただいたり、面会時にも病棟看護師より詳しく話を聞けるように段取りもしていただいている。また病院の看護師が毎年実習に来られ、互いの要望や施設の在り方など話せる機会もあり、顔見知りになる事で相談もしやすい関係が築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設してから現在までターミナルや重度化対象の方はいないが、そのような場合は法人の看取り指針に沿って対応していく。またご家族とも密に連絡を取り合い話し合いを重ねていき、支援に取り組んでいく。またターミナルについての勉強会もあり、学んだ事を生かせるようにしていきたい。	重度化した場合について、重要事項説明書に記載しており、入居時に事業所で出来ること、できないことの説明をしている。また、状態の変化に応じて、繰り返し説明を行いながら、本人や家族の思いに沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で介護勉強会があり、その中に緊急時の対応について学んでいる。看護師が講師となり、AEDや酸素等の取扱いなどの実技もあり、実践にそなえて生かせるように訓練をしている。実際に急変があった場合は特養からの応援もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練や、地域の消防団と合同で避難訓練を行っている。H29年9月3日には消防署・消防団の方々や夜間想定の実際の通報訓練・避難誘導訓練の様子を見ていただき意見をいただいている。	年1回、消防署や地域の消防団との合同訓練を行い、協力体制を築いている。その他にも、月1回、昼夜の火災を想定した避難訓練を利用者と共に行っているが、自然災害を想定した訓練は行っていない。	事業所は高台にあり、地域の避難所に指定されている場所ではあるが、全職員で自然災害時の対応について等、検討していくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには十分に配慮しており、常日頃から気を付けている。声掛け等についても個々の性格がありその方の人格を尊重した声掛けに努めている。声掛け等是不適切な介護チェック表にも自己評価があり、また職員同士で注意し合うようにしている。	年1回、法人の全体会議で研修を行い、周知徹底に取り組んでいる。月1回、チェック表を用いてケアを振り返りながら、一人ひとりの人格や誇りを尊重した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知度が軽い方は食事アンケートをとり希望を聞いたりしている。食事のメニューについても毎日ではないが今何が食べたいか聞いている。入浴や外出・レクリエーションの参加など、普段から自己決定してもらう事はできている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムを把握しており、その方に合った支援を行っている。また認知度が軽い方は希望を聞いているが、認知度が重度な方や行事や対応困難者の対応に追われる際は、職員側の都合を優先せざるをえない時があるが、きちんと都度説明している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でお化粧をされたり、色の組み合わせを考えて衣類を重ね着されたりする際、一緒に洋服を選んだりしている。お化粧やフェイスマッサージやヘアアレンジや、広告を見て欲しい物があれば買い物支援も必要に応じて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苑でできた野菜を収穫し、その野菜と一緒に調理を行ったり、焼き肉パーティーや特養と合同で秋はサンマパーティーを行ったりしている。今年度よりGH独自の行事食の提供を毎月行うようにしている。調理だけでなく配膳や台拭き・皿洗いなどそれぞれ行っている。	朝食は手作りの食事を提供している。準備や配膳、片付けを利用者と職員が一緒に行いながら、一緒に食卓を囲んでいる。前年度の目標であった行事食も手作りし、目標を達成している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた1日に必要な水分量を出して補水を促している。体重の増減や食べれる量に合わせても食事を調節している。毎月、栄養士にGHの食事の栄養バランスを計算してもらいコメントをもらっている。状態によっては主治医にも相談する事がある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で磨ける方には声掛けを行い、最後は磨き残しがないかチェックし、ケアの必要がある方は介助を行っている。歯間ブラシや舌ブラシが必要な方には個別に対応している。また特養に歯科衛生士がいるため、必要時は状態を診てもらい、Drにも連絡をしてもらい連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	総合記録表より24時間の排泄パターンを把握し、失敗のないようにその方に合わせたトイレの声掛け・誘導を行っている。パットについては排尿量に合わせ無駄のないように個々に合わせた物を使用しているが、可能な限りトイレでの排泄を促している。	一人ひとりの力や習慣を把握し、羞恥心に配慮した、さりげない声掛けや誘導を行っている。できるだけトイレでの排泄を心掛け、すべてのトイレに前傾姿勢支持テーブルを設置するなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	玄米食や・乳製品の提供をしている。食事面だけではなく、腹部マッサージや運動・排便時の姿勢や朝食後のトイレ誘導も取り入れ便秘の改善に取り組んでいる。カマグ内服者には水分量にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は毎日午後からとなっているが、ご利用者の希望に合わせて午前でも都度入浴できるようになっている。数種類の入浴剤を用意しており季節や気分に合わせて使用している。柚子湯や菖蒲湯なども行っており、また個々の好きな温度調整も行っている。	本人の希望に沿って、週3回以上の入浴となっている。毎日入浴する人もいる。入浴を嫌がる人にも、声かけを工夫し週2~3回の入浴を支援している。入浴剤などを活用し、入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間によく眠れる範囲で午前・午後に1~2時間程昼寝をされる方や、夕食後にスペースでTVを見られたり職員と談笑されたり、塗り絵等をされる方、また眠くなるまで居室でTVを見て過ごされる方など様々であり、日中はなるべく活動を促して安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の処方箋のファイルがあり、処方の変更時は日誌に記入し変更時の状態変化等も分かるようにしている。詳しい副作用についてもインターネットで調べたり薬剤師に確認したりし、症状があればすぐ相談している。必要性のなさそうな薬はDrに相談し、薬が減った方もいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を生かし、得意な事は自立またはサポートしながら日常生活の中に取り入れている。手伝いをされた方用にスタンプカードを作成しており、スタンプ集めに勤しむ方や、新しい趣味を見つけた方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事や盆踊り・お祭り・外食・観劇や初詣等に出掛けている。ふるさと訪問も行っており、墓参りなどをされる方や自宅のご近所の方と交流をされる方もおり、外出を楽しみにされている。また地域のお店へ行く事で知り合いに合われて懐かしまれる方もいる。	苑内の散歩や外気浴を日常的に行っている。買い物や観劇、農業公園、季節の花見などのドライブ、外食に出かけるなど、一人ひとりの希望に沿った外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は職員が行っているが、買い物支援などの際はご自分で支払っていただいたりしている。中には職員作成のお金を持ち喜ばれる方もおり、お礼でそのお金を職員に配られたり、外出先で店員に支払い喜ばれる方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話はいつでもとりつけ、また往診結果や日常の様子などGHからご家族に電話をかける事も多く、その際にご本人と変わりご家族とご本人が話される事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとの壁のディスプレイを作成している。風呂場は温泉マークで分かりやすくし、台所も対面式で調理の様子も見れ、家庭らしさを大切にしている。各居室・スペース等に温度計・湿度計も完備し、温度管理にも努めている。	リビングには、テーブル席の他にテレビやソファを2か所に配置し、思い思いの場所でくつろげる工夫をしている。光や音、室温など、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは食事の席は決めているが、それ以外の時間は自由に好きな場所で過ごされている。新しく入居された方がいる場合や、ご利用者同士の折り合いが悪い日は必要に応じて都度、席替えを行っている。また玄関のソファや外のテラスでくつろがれる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	TVや家具・布団等を持ち込んでおられる方や、ご主人の遺影を持ち込まれている方もおり、お茶やお菓子をお供えされる方もいる。ご家族が面会にいらした際は写真を撮り居室に飾っていただいたり、アルバムを持ち込まれる方・ぬいぐるみを置かれている方もおられる。	使い慣れた籐のイスや布団、洋服、家族の写真や手紙を飾るなど、一人ひとりの好みのものを活かして居心地よく過ごせるような工夫をしている。 窓から桜の木が見え、季節の変化を楽しめる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの開閉が分からない方には開閉の仕方を貼り紙で表示したり、ヒヤリハット等を生かして安全に生活できるように支援している。また、お茶の入れ方が分かる方は、自由にお茶が飲めるようにしていたり、できる方はご自分の洗濯物は自分でたたんでいただいている。		